

《福井市の公民館に思う》



「公民館」という社会教育の場で学ぶこと

元中央公民館館長

元市公民館運営審議会連絡会会長

藤嶋 昭二

《人は学ぶことを止めると、老衰と頑迷が始まる！》

わたしの公務員生活での初任先は中央公園南側の中央公民館で、今から48年前の昭和45年10月5日の着任でした。ちょうど福井市の中央公民館と順化公民館が併設館として新築完成した年です。その中央公民館第1号の公民館主事の辞令から始まりました。社会人としてのデビューの場が「公民館」となりましたが、ここが社会教育の拠点であることを正しく認識するまでには正直なところ相当の時間を要しました。事務所で机を並べていた当時の順化公民館の主事さんは、何と毎日2つの弁当を持参されていたのです。「Mさん、2つも弁当どうするの？」と、尋ねました。知らなかったんですね…公民館は夜9時が閉館だということを。こんな無知蒙昧な新人をよくぞ我慢をしながら育てていただいたなあと、今でも感謝の念で一杯です。

館長さんも立派な方で、教師になろうと東京の豊島師範学校に通いながらも家業のあと継ぎを任されてふるさとに戻られましたが、教育への情熱を「社会教育の要である公民館」に注がれ、福井市の公民館の基礎を築かれました。中央公民館での私の3年半の日々は、人生の歩み方を学べた貴重な経験でした。当時の講座の中で紹介された「人は学ぶことを止めると、老衰と頑迷が始まる」という言葉が今でも脳裏に焼き付いています。

《公民館とは、公民を育てる館です！》

館長さん、主事さん、管理人さん、運営審議会の委員さんは、常に初心を忘れずに「公民館の原点は何か」ということを自らに問い続けることが大切だと思います。そして、足を運んでくださる地域の方々に学びの支援と奉仕をすることを天職としてとらえ、率先して学び続ける「公民館人」であるよう努力されることが求められています。

全公連発行の「月刊公民館」では、毎年4月号で「公民館入門ガイド」を特集し、その原点を紹介しています。年に1回でも、こぞって公民館の原点を確認し合い、公民館誕生71年目を迎える今、新たな気持ちで公民館の歌「自由の朝」を、その書かれている詞(ことば)を味わいながら歌いつつ、「自由の朝を慶び、学びによって文化の泉をくみ取り、明日へと生きる力」を蓄えながら来館者を待ち、尊い任務に入るといふ流れはいかがでしょうか。

岐阜県伊那郡岩村藩の儒学者、佐藤一斎は「学び続けることの大切さ」を説きました。また、公民館の生みの親として知られている寺中作雄は「公民館とは公民の家である」と述べていますが、私は視点を变えて「公民館は、住民を公民に育てる館である」と捉えたいと思います。公民館での様々な学びによって、地域の住民から、公共社会のために尽力できる公民になっていただくことが究極のねらいだと思います。そして、1人でも多くの方が、「地域の公民」として活躍できる場と機会を発掘することが、縁あって関わった多くの先達を含めた「公民館人」の願いではないでしょうか。